

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
I. 理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員と共に考えた6項目のうち、2項目地域に対しての理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び運営方針を寮母室前に掲示し職員が常に応用できるように取り組んでいる。	○	一月毎のスタッフ会議にて理念の実施について議題に毎回実施とする。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族面会簿記入場所付近に掲示し、常に家族が確認できるようにしている。 家族面会時、運営推進会議等、あいあい通信等で理解を深める努力をしている。		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との近所への散歩及び花子(飼い犬)散歩時に気軽に挨拶を交わしている。園庭でのイベントに近所の方に参加出来るように声をかけている。		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭り参加の実施。「あいあい松戸夏祭り」に地域の方が毎年参加頂いている。夏祭り開催前は自治会掲示板を使用し近隣の方に宣伝をさせてもらっている。毎週月曜日に地域環境美化のために清掃活動の実施。	○	毎月発行している「あいあい通信」を地域の回覧板にいれてもらう。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会を通じ、提案はしているが実行までには至らず。	○	地域の方に向け介護者教室の開催を検討予定。9月地域運営推進会議の議題に取り上げる予定。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施されていない。	○	自己評価及び外部評価内容を毎月開催のスタッフ会議の議題にしていく。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後に参加者にアンケートの実施。アンケート回答内容について話し合いを行なっている。		
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員派遣を希望依頼中。	○	介護相談員に定期的に訪問してもらうと同時に、包括支援センタースタッフにも訪問してもらう機会を作る。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	8月度の社内研修にて勉強会の実施。職員全員が学ぶ機会を持った。	○	社内研修にて実施。グループホーム内にて実施することに更に内容の充実を図ることを目的とする。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	8月度の社内研修にて勉強会の実施。職員全員が学ぶ機会を持った。管理者の経験談を話す事により更に注意を図っている。虐待防止の社外研修に職員が積極的参加が行なえるように支援している。	○	グループホーム内社内研修にて実施し更に内容の充実を図ることを目的とする。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談室を使用する。管理者と担当現場スタッフ2名体制にて実施。利用者は席を外してもらい、ゆっくり話しが出来る環境設定をしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思疎通の図れる利用者は直接スタッフに訴える。それをスタッフ会議に話し合い職員が共通認識をする。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書郵送時に「あいあい新聞」「状態報告書」「預かり金明細」を家族に郵送している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に積極的に管理者が顔を出し、意見を聞くようにし、運営に反映できるようにしている。	○	半年に一度、家族アンケートの実施を行い集計をし運営に反映させることとする。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「提案制度(報奨金有り)」を実施。提案事項に関しては反映させている。行事開催時は事前アンケートを実施し、内容を反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望等により必要に応じ、担当スタッフの勤務調整をしている。困難な場合は管理者にて対応している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は基本的には無い。離職率を最小限に抑えられるよう管理者よりの職員教育の徹底はしているが、限られた介護報酬で職員の待遇面を改善するには限界を感じる。		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は、新人教育マニュアルにより教育の確立。月一回の社内研修の実施。ユニット毎の3ヶ月に1回の社内研修の実施。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のGH連絡協議会に加入し、開催されるセミナー等には参加し情報収集をしている。同グループ施設のグループホームのスタッフ研修でスタッフが行き来している。相互研修として取り組んでいる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に食事会等を実施し、職員交流を図る。スタッフのモチベーション状況により随時管理者等との個人面談を実施している。	○	職員親睦会費を職員交流時に有効利用する。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表作成時日勤帯勤務が3日以上続かないように考慮する。特に社内研修においては、ブレインストーミング法を活用し、個々のモチベーションがあがる様に努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず見学に来てもらい、スタッフが対応する。話を聞く際は、ホールにて話しやすい環境づくりをしている。	○	新規相談依頼時シート内容修正を実施する。
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず見学に来てもらい、管理者が対応する。又、話を聞く際は、相談室にて話しやすい環境づくりをしている。	○	新規相談依頼時シート内容修正を実施する。
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人から話を伺って確認している。居宅介護支援専門員・介護スタッフ等の意見を聞きながら対応している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、施設見学に来ていただく。居宅介護支援専門員と相談し、併設サービスであるデイサービス利用を行ってもらい、徐々に環境の変化に対応出来るよう促している。また、必要であれば、体験入所を行っていただく。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、本人の訴え要望を気につけ、生活歴を生かした上でクラブ活動を発足し、本人の潜在能力を引き出せるよう援助を行っている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月、状態報告書を家族に送り日頃の状態等を報告している。また、行事等への参加を呼びかけ普段とは違う表情を見ていただく。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人入居時の、環境変化による精神不安解消を目的にて入居時1ヶ月間は、面会回数を増やしてもらうよう話をしている。また、家族面会時に本人が喜んでいる事について家族に報告をしている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにて確認をし、家族の了解を得た上で、関係が途切れないように支援している。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しやすい利用者に関しては、スタッフが間に入り関わりを持つよう促している。また、午前・午後のレクを活用し、利用者同士の関わりを多く作っている。また、外出時車の座席等考慮している。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も、状況を把握するため、家族の了解を得て入院先等への訪問・ご家族への連絡を行い相談に応じることが出来るようにしている。また、退居後の支援経過について職員と情報共有をしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントの実施し、把握に努めている。それを基にスタッフ会議にて検討している。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・今までの生活環境等を把握し、スタッフで共有している。また、GHでの生活で反映できるようにしている。サービス利用に関しては、可能な限り居宅介護支援専門員に入居前直近3か月分のサービス利用票を提出してもらっている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝夕の申し送り時に伝え、スタッフ間の情報共有に努めている。また、バイタルチェック・食事・排泄・水分等多方面から状態把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望・家族の要望をふまえ、担当スタッフと話し合いを行い計画を立てている。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度対応を決定し、申し送りにて情報共有をしている。また、週一回のミーティングにて状態変化のある利用者についての話し合いを持ち、対応方法について検討している。		
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日頃の状態を記入している。それに基づきケアの改善や介護計画の見直しに活かしている。また、スタッフ全員で共有できるようパソコンにて管理し、いつでも閲覧できる状態にしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のデイサービスと連携し、状況に応じデイサービスにて過ごす時間を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	太鼓・舞踊等のボランティア団体に定期的に訪問していただいている。避難訓練時には、消防に協力依頼、行事開催時には、警察に事前報告をしている。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者との連携はまだ、できていない。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働できるよう今後働きかけていきたい。	○	地域包括支援センターと相談しどのような事が行えるのか検討をする。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるよう支援している。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1度、診療所により往診してもらっている。職員・利用者様共に医師と相談しやすい環境となっている。定期的に、精神科ドクターと話し合いをおこなっている。		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診診療所の看護師と随時相談できる環境が整っている。また、併設施設のデイサービス看護師と連携をしている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者入院時、入院先の病院へ定期的に面会を行いMSWと密に連絡を取り早期退院に向け働きかけている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、ターミナル期における意向を家族に確認する。重度化の予測時、出来るだけ早い段階から主治医・家族と連携を図り、方向性について情報共有をする。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の導入時に、ドクター・家族・スタッフとケアの統一を話し合う。定期的に、スタッフ会議にて現状確認を行い、変化に備えて検討している。当グループホームにて2名の看取りを行った。	○	終末期の導入ミーティング時に本人の希望されることを更に確認し極力、実行に移す。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	早い段階より、住み替え先の環境を確認し、話し合いを持ち環境の設定を提案。サマリーの作成し、本人が混乱しない様に支援している。当グループホームにて1名の在宅復帰が行えた。	○	在宅復帰希望利用者・家族があれば、支援を協力的に行う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時、個人情報保護に関する誓約書を作成している。利用者様の申し送り・ミーティング等は、利用者の見えない場所にて行っている。寮母室にシュレッターを設置し、個人情報の廃棄に関しては、シュレッターの使用を徹底。4月の社内研修にて個人情報保護について実施している。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活において、選択肢を用い、分かりやすい方法にて働きかけている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ個々のペースで過ごせるように努力している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	併設された美容室に行き、本人の希望によりカット・カラー・パーマ等を行う。また、外出の際はおしゃれを支援できるよう化粧等の支援を行っている。	○	個々の化粧道具の充実を図る。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは定期的な管理栄養士の指導の基、スタッフが作成している。利用者の残存能力を活かし、食事準備・片づけ等を職員と共に行っている。一月毎に、寿司の日・刺身の日を設定している。	○	個人の嗜好調査を定期的に行い、献立に反映させることとする。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の了解の基、お酒に関しては行事の際のみ提供している。おやつに関しては、月2回お菓子売店を行い本人の好きなお菓子を購入していただいている。飲み物に関しては、8種類準備しており、希望に沿ったものを提供している。	○	現時点にて喫煙を希望される利用者はいないが、今後入居になった時に場所等の検討が必要。
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中・夜間共にオムツは使わずトイレ誘導にて排泄を促している。やむを得ずオムツ使用の方は、定期時刻のオムツ交換と異臭あった際は、即交換している。	○	やむを得ずオムツ使用となっている利用者の排泄パターン作成。
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間は固定している。基本的には就寝前の夜間浴での対応をしているが身体状況により日中帯にて入浴されている方もいる。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活スタイルや体調面を考え個々の生活サイクルで支援している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	犬の好きな方には朝・夕のはなこ(飼い犬)の散歩に出かけている。また、個々の生活歴・趣味を活かしたクラブ活動を展開している。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりの現金預り金があり、外出・買い物・お菓子売店等にて個々に財布を所持してもらい、使用できるように支援している。	○	可能な限り、財布を利用者が自己管理を行えるように支援をする。
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩に出掛けている。また、食材買い物は通常ローテーションにより行っているが、日によって利用者よりその日の買い物希望があった際は変更し支援している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月、外出行事で遠方へ出かけ気晴らしの支援をしている。毎月発行している広報紙・面会時において家族の参加も呼びかけ、気軽に家族も参加が出来る環境を整えている。それによって毎月、家族の参加もある。特に7月の城南島バーベキューは皆様より大好評であった。	○	個別での遠方外出の実現。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をかけたい希望があれば応じている。手紙を頂いた時は本人に渡している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はしていない。		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	8月度の社内研修にて勉強会の実施。職員全員が学ぶ機会を持った。ベッド柵等のやむを得ない行為においては、家族より同意書を頂いている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の目の前に国道があり車の往来が昼夜共にあり危険性がある為に、外門柱のみ施錠してある。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中帯に居室にて過ごされている方に関しては30分ごとに様子を確認、夜間(10時～5時)は1時間毎に確認をしている。特に夜間に関しては入眠を妨害せぬように全職員が注意を払っている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理器具等はキッチンよりスタッフが離れる際は利用者の見えない場所に収納。その他、ハサミや裁縫道具は寮母室管理だが一人一人の状況に応じて貸して返却を必ず確認している。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止についての社内研修は年に4回実施している。事故発生時はその都度、事故対策委員により事故分析が行われ、月に一回事故対策委員会によりアセスメントの実施後、次に生かされている。また、事故発生ポイントが寮母室に掲示されている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行えていない。緊急対応の社内研修を年一回講義と実技を行っている。書面上のマニュアルは常時、机にぶらさがっており、常に確認できるようになっている。	○	定期的な実技研修の開催。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に3回実施予定。内一回は7月に昼間想定として行なった。避難訓練開催時には近隣の方にお知らせをしている。運営推進会議の議題としても9月に取り上げる予定。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々なリスクに関しては、入居契約時に家族に説明している。状態変化時、電話連絡等により説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の暮らしの中で二日に一度のバイタルチェック、毎日の排泄チェックの確認により体調の変化にすぐ気付くよう注意している。体調変化時はすぐに家族に連絡をとり、今後の方向性について検討している		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書を寮母室に常備し、スタッフが薬の作用等に関して理解できるようにしている。内服変更時は薬局より訪問薬剤管理指導を受けている。		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日確認して排泄状態を管理している。便秘予防に毎日、ラジオ体操・リハビリ運動を実施と水分摂取、食事係りによるおやつ・献立(小豆、寒天、芋類等)を工夫して作成している。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア担当スタッフより個々に応じて、声かけ・介助を行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時に牛乳、毎食前後にお茶の提供、10時・おやつ・入浴後に一日1500ミリリットルを目標として水分摂取に努めている。目標値はキッチン掲示板に掲示し、常時利用者・スタッフが確認できるようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルス・疥癬の対応マニュアルを作成している。日頃より、利用者・スタッフ共に向がい・手洗いをを行う。各共用スペース清掃後に消毒を行い予防に努めている。手拭もペーパータオルで行い、感染を予防している。	○	インフルエンザ・肝炎・MRSA対応マニュアル作成。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は二日に一度の買出しで使いきりとし常に新鮮な物を提供している。調理器具・食器・キッチン毎日消毒(夜勤者)、冷蔵庫は週に一度掃除・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく、親しみやすさを感じてもらえるよう、玄関アプローチに花を飾っている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾係りが担当となり、リビングや廊下の壁に月毎に飾りや写真を装飾している。在宅を意識しトイレのピクトサインに工夫をしている。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、お互いの居室を行き来したり、テレビ前のソファにて利用者同士での会話を楽しんでいる。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込みの制限はしていない。お茶わん・お椀・湯呑み・箸は使い慣れたものを持参してもらっている。利用者によっては、仏壇・筆筒を持ち込まれる方もいる。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	月に一度、フィルター・換気扇掃除を行っている。毎朝の清掃時には全部の窓を開けて換気を行っている。エアコンの温度設定はクールビズ・ウォームビズ設定温度にて行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーとなっている。トイレ・入浴場・廊下・ホールに手すりを設置し安全に歩行が出来るようになっている。床材がクッションフロア材を使用しており、柔らかい床材である。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室に、手作りの表札を作り混乱を防ぐようにしている。トイレにはピクトサインがあり、分かりやすくしている。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物外周りに花壇・畑がありクラブ活動を通して活用している。屋上があり、夏祭り・花火大会・流しそうめん等の行事開催を多数行っている。		

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① <u>毎日ある</u> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者があるところへ出かけている ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ② <u>数日に1回程度</u> ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない